

第14回 厚木看護専門学校 教育課程編成委員会 議事録

日時：2022年7月7日(木)

16:00～17:00

場所：厚木看護専門学校 会議室

1 外部委員出席者（7人）

- (1) 三宅 正敬（厚木医師会 会長）
- (2) 北野 義和（厚木病院協会 副会長）
- (3) 吉村 由紀（神奈川県看護協会 県央支部長）
- (4) 伊藤 玲子（東名厚木病院 副院長兼看護部長）
- (5) 神保 京美（伊勢原協同病院 副院長兼看護部長）
- (6) 山下 喜典（厚木市 市民健康部長）
- (7) 梅澤 広昭（神奈川県立厚木東高等学校 校長）

2 厚木看護専門学校教職員出席者（5人）

学校長 武藤和恵【委員長】、 副学校長 五十嵐一美【副委員長】、
看護学科長 島田真由美、 看護学科総括主査 持木香代、 総務課長 茂木憲明

3 議題等

- (1) 議題
 - ① 2021年度 各学年のねらいと到達目標の評価について
 - ② 新カリキュラムによる授業・実習の状況について
- (2) 校内見学（シミュレーションルーム）
- (3) (1)の議題、(2)の校内見学に関する質疑応答、意見交換
- (4) その他
 - ① 2023年度4月入学生からの「ダブルスクール制度」の導入について
- (5) 配付資料
 - ① 2023年度入学生用 スクールガイダンス
 - ② 「ダブルスクール制度」リーフレット
 - ③ 2022年度 シラバス
 - ④ 2021年度 各学年のねらいと到達目標の評価について
 - ⑤ 教育課程編成委員会名簿
 - ⑥ 教育課程編成委員会規程
 - ⑦ 座席表

4 内容等

【五十嵐副学校長】

配付資料の確認、外部委員紹介及び、当校教職員紹介を行った。

【武藤学校長挨拶】

新しい委員である北野委員と梅澤委員をお迎えし、本日の第14回委員会を開催する。

2022年4月に85名が入学し、1年生が87名、2年生が84名、3年生が90名の計261名と、嬉しいことに定員240人を超えて在籍している。2021年度の委員会では新カリキュラム編成で様々なご意見を頂戴し、この4月から実施を始め、まだ3カ月が経過したばかりである。本日はシミュレーションルーム見学の内容を含め、ご意見をいただければと思う。

【持木看護学科総括主査】

配付資料④に基づき、3の(1)の①「2021年度 各学年のねらいと到達目標の評価について」を説明した。

学生の到達目標に関するアンケートは、約8割の回答が肯定的な回答であり、到達目標を概ねクリアしている。教職員と学生の連絡ツールであるマイクロソフトチームズの体制も概ね8割の肯定的回答であった。国家試験対策の課題のやりとりもチームズで行っている。

【島田看護学科長】

配付資料③「2022年度 シラバス」に基づき3の(1)の②「新カリキュラムによる授業・実習の状況について」を説明した。

シラバスP6の授業科目進度表をご覧いただきたい。1年生の『解剖生理学I』の授業が3カ月经過したところである。併せて『疾病と治療I（消化器、運動器、脳神経）』の授業も3カ月经過しており、各々の授業は総90時間のうち約50時間が終わった。解剖生理学Iの理解に苦しんだ学生が、疾病と治療Iの授業を受けたところ、理解につながった。学習の仕方を学んだものと思う。

授業もタブレットを使ったICT方式であり、学生からは紙媒体より取り組みやすいと意見があった。教員としてはICT管理により課題提出が重複しないよう配慮できるメリットがあった。

シラバスP7の『地域・在宅看護論 人の暮らしと健康』の授業を現在進めている。実習施設連絡協議会において、対象者を人としてのAさんと捉えるのではなく、疾患名から捉える新任看護師が多く、気になるという意見を頂戴したが、地域・在宅看護論実習は、地域で暮らす人に焦点を当てた実習であり、今後、評価していきたい。

病院等実習においては、タブレットを使用し取り組んでいる。ただし病院では学習室など場所を限定して使用している。教員が御膳立てをせず学生が自主的に看護師としてのコミュニケーション能力を高め対人関係を構築する能力を修得できるよう取り組んでいるところである。

上記(2)の校内見学（シミュレーションルーム）のあと、以下の意見交換があった。

【伊藤委員】

配付資料「2021年度 各学年のねらいと到達目標の評価について」をみると、3年生は概ね満足しているものの1年生と2年生は感染対策体制に満足していない率が高いと感じるが、満足していない理由は何か。

【持木看護学科総括主査】

理由は把握できていない。

【梅澤委員】

高校生でも、3年生はネガティブな意見は少ないが、1年生や2年生は多い傾向がある。ネガティブな意見の割合が多くなれば、同時に中退などで離脱する学生の数は比例して増えると思う。

【武藤学校長】

厚看は通常、1%程度の退学率で推移している。しかし2020年度の新型コロナ感染流行時には、4%に上昇した。

【梅澤委員】

2020年度、2021年度と2年間の新型コロナ感染流行があり、高校在学中のリモート学習世代のメリットとデメリットが表面化してきている。ICTには強いが、講義のメモをノートにまとめる能力は弱い。高校生の気質もこの2年で変わっている。

【島田看護学科長】

現在の当校2年生は、学生間でマイク渡しができないとか授業内でのグループが作れないなどのコミュニケーション不足が見られたが、1年生は社交的で、高校新卒学生と社会人出身学生が協力関係を築いている。当校2年生は社会人出身学生が少なく、1年生は社会人出身学生が多い。このため学生たちの雰囲気も異なっている。

3年生は、コロナ感染流行のため2年次に老人保健施設実習に行かれなかったことも影響し、調整力などに課題があり、現在、臨地で学んでいる途中である。

なお、1年生は入学後すぐの4月に、外部テスト機関による基礎力リサーチを行い、アンケートもとっている。アンケート質問項目『学習に迷いがあるか』にYESと答える学生は退学していく傾向が強いと外部機関から示されている。

【三宅委員】

基礎学力は、入学試験結果では測れないのか。推薦入試の内申点などでもある程度の学習到達度は測れる気がするが、いかがか。

【武藤学校長】

指定校推薦学生の基礎学力基準の判断が難しい。内申点が良くても、実際に入校すると学力が低いこともある。高校間レベル差もあり判断が難しい。

学生の試験形態希望で人気があるのは、実施時期の早いAO入試や推薦入試である。少しでも早く進路を決めたい傾向にあり、AO入試は応募者が多いが、国語のみの試験科目のため基礎学力を測りきれない。試験科目の多い一般入試は実施時期が遅く、応募が少なくなってきた状況である。

【梅澤委員】

有名大学でも、付属高校からの推薦を定員の3割から4割しか受け入れていないのが現状であり、AO入試の採用が多い。そして入学後すぐに基礎学力を測る大学が多いと聞く。

その一方で別の大学では、推薦指定校からの入学生は真面目な学生が多く、一般入試の学生は基礎学力にミスマッチがあると聞く。現在、高校としても対応が必要な課題としてとらえている。

【武藤学校長】

学力面で大学に進学できなくて厚看に入学した学生は、学習意欲が低いと感じている。

【梅澤委員】

県立高校では、専門学校に進むことイコール就職活動と同じと考え、指導している。専門学校には、卒業後の進路として真剣に捉えている意識の高い学生を進ませたい。オープンキャンパスにも積極的に参加するよう指導している。

特に厚看に対しては、どこの高校でも、レベルの高い学生を選抜して厚看に進ませていると思う。

【吉村委員】

災害支援ナースの登録は10万人のうち11.1人と神奈川県内ではまだまだ少ない。新カリキュラム科目である「災害看護」をどうやって教えていくのか。

【武藤学校長】

1年次前期に、災害医療の中心である日本赤十字社から、災害時救急に係るBLS講習を教義してもらっている。1年次の早い段階で学ぶことで看護への意欲を高めたいと考えている。

【山下委員】

配付資料「2021年度 各学年のねらいと到達目標の評価について」のアンケート資料をみると、質問項目全般に渡り、1年生と2年生は『到達目標に達せていない』という回答が多いのは何故か。また、このアンケートは以前から実施しているのか。

【武藤学校長】

自ら起因する理由（自分の努力が足りなくて）により目標に達せていないと回答していると思う。

アンケートは2021年度には質問項目を見直したため、前年度との比較はできない。

【武藤学校長】

地域・在宅看護論が新カリキュラムであり重視されている地域・在宅看護に向け、今後学生たちには幅広い知識を身につけてほしいと考えている。厚木市役所様にもご協力をお願いしているところである。

【山下委員】

厚木市としても、可能な限り協力させていただく。東名厚木病院様には、在宅医療の面ですでに協力いただいている。

【三宅委員】

地域医療の実地に携わる関係者が集まり、定期的に研修会を開き、問題点に取り組んでいる。1カ月に1回程度集まっている。新型コロナ感染状況がもう少し落ち着いたら、その研修会に学生を案内してもいいと考えているところである。

【北野委員】

厚看から神奈川県内への就職率はどのくらいなのか。

【武藤学校長】

100%である。神奈川県県央地区に限定すると、89%くらいである。

【伊藤委員】

看護学生在学中に実習した病院に就職し、その病院で育成された看護師は、地域看護に出向いて看護師として従事する希望は少ない。病院で継続して働きたい希望が強い。

【武藤学校長】

当校卒業後に新卒で訪問看護ステーションに就職した卒業生2人しかいないと聞いている。

【伊藤委員】

病院では、入職してからの教育体制がすでに整っている。しかし訪問看護ステーションなど在宅看護の現場では、教育体制は十分に整っていない。

【北野委員】

将来的には体制を整え実施しても良いと思う。

【吉村委員】

かつて、神奈川リハ病院で3年勤務したあと、当方の病院（森の里病院）に来て、そのあと訪問看護ステーションで働いた看護師は存在した。

しかし、現実問題として、訪問看護ステーションにおける入職後の教育では、指導する看護師と新人がペアで訪問看護を続けることができるのは短い期間だけと思う。また経営面からみても短期間だけと思う。病棟で経験を積み、アセスメントを受けた看護師でないと訪問看護の業務は務まらない。病院看護師の確保状況、地域での保健師の充足状況を考えても、新卒1年目の入職はまだ難しいと思う。

【武藤学校長】

当校学生には、様々な看護の分野を学んでほしいと切に願っている。

【五十嵐副学校長】

(4)のその他、2023年度4月入学生からの「ダブルスクール制度」の導入について配布資料リーフレットに基づき説明した。

厚木看護専門学校と放送大学の同時単位取得は、在学中も大変である。そして放送大

学の最後の4年目は、当校を卒業し看護師入職1年目となる。できるだけこの4年目の負担を軽くするよう支援し、学士取得の希望を叶えたいと考えている。

申請手続き後、2022年6月15日に正式決定した。希望状況は、2023年3月の次回委員会開催時に報告する予定である。

【神保委員】

厚看以外の3年制看護師養成校のなかで、ダブルスクールに取り組んでいる学校はあるのか。

【五十嵐副学校長】

神奈川県内では当校が初めて実施する。西日本（大阪など）は多く実施している。PT・OTの養成校では多く取り組んでいるようである。

【神保委員】

当方病院（伊勢原協同病院）でも入職後1年目の学士挑戦者をフォローしたい。申込状況を教えてほしい。

【伊藤委員】

当方病院（東名厚木病院）でも入職1年目の配属に相談に乗ってあげたい。よろしく願います。

以上